

保幼小をつなぐ保育者養成

デンマークの0年生とペタゴに学ぶ幼小接続期

企 画 : 横山真貴子 (奈良教育大学)
 掘越 紀香 (奈良教育大学)
 話題提供者 : 齋藤 正典 (相模女子大学)
 掘越 紀香 (奈良教育大学)
 横山真貴子 (奈良教育大学)

〔企画主旨〕

現在、幼児期から児童期への移行において、より円滑な接続が目指されている。保幼小連携や接続期にかかわる保育者・小学校教師間の連携、子ども理解は必要不可欠である。現場向けの研修は行われているが、保育者養成においても、保幼小をつなぐ人材の育成が必要である。

本ラウンドテーブルでは、まず海外における幼小接続の先進例として、デンマークを取り上げる。近年義務化された0年生とそれを支える保育者の連携、ペタゴ（保育者）養成の実態について話題提供する。次に、保幼小をつなぐ日本での保育者養成の展開可能性について話題提供する。話題提供者と参加者との議論を通して、幼小接続に対応する今後の保育者養成の在り方について検討したい。

〔デンマークの保育・教育の概要〕

横山真貴子

デンマークの就学前の保育・教育の特徴は、社会省（Ministry of Social Affairs and Integration）が管轄する保育園に一本化されている点にある。保育施設の多くは公立園であり、年齢によって、6か月～2歳の「乳児保育園」と3～6歳の「保育園」に分けられ、両者を併せた「統合保育園」もある。また、デンマーク発祥といわれ、一年中森へ出かける「森の保育園」も人気がある。

デンマークの教育の特色は義務教育にもある。小中一貫（7～15歳）の国民学校（Folkeskole）の9年間に加え、2009年より就学前クラス（6～7歳）が義務化され、0年生とされたことで、10年間となった。また、10年生として、任意で1年間教育を継続できるシステムも用意されている。このように、幼保一体化、保幼小接続のいずれの観点からも、デンマークから学ぶべきことは多い。

〔デンマークの0年生〕

掘越 紀香

ほとんどの6歳児が国民学校に設置されている就学前クラスへ通っている実態から、2009年に0年生として義務化された。主としてペタゴ（Pædagog）が担当するが、国民学校の教師も参加する。デンマークの保育では、子どもが遊びを通して学ぶことを大事にしており、0年生においても、遊びながら学習の準備をすることが大切にされている。造形やゲームなどの活動を通して、数字を身につけ、国語に慣れることが目指されていた。また、「社会性」を高めることにも重点が置かれている。

0年生は8月から始まるが、5月から国民学校に併設されている学童保育（SFO）へ通うことになるため、移行に伴う配慮として、保育園のペタゴ、学童保育のペタゴとも連携している。0年生の取り組みを紹介する中で、ペタゴ同士や教師との連携についても考えたい。

〔デンマークの保育者（ペタゴ）養成〕

齋藤 正典

デンマークにおける保育者資格は、ペタゴ（Social Educator, 社会生活指導員）であり、この資格を取得するためには、専門大学（Seminarium）で3年半（7学期）の課程を修了しなくてはならない。全7学期のうち、4学期分は大学で理論を学び、3学期分は実習を行うといった構成で、学んだ理論に基づいて実習を行い、実習での課題を大学で解決していくといったサイクルによって、高い専門性と実践力を有するペタゴを養成していくプログラムとなっている。そこで、このデンマークの保育者（ペタゴ）養成プログラムを具体的に紹介していきながら、保育者養成の中でどのような資質・能力の習得に重点をおいているのかについて考えていきたい。

〔保幼小接続に対応する保育者養成プログラム〕

掘越 紀香

幼小接続を円滑にするため、奈良教育大学では、幼児教育から小学校教育への接続に対応できる人材の養成を目指し、附属校園と連携してプロジェクトを展開している。昨年作成された「保幼小接続連携力養成プログラム」では、幼小接続に対応するために必要な力として、「連携力」を挙げている。

「連携力」とは、「保育所・幼稚園・認定こども園から小学校へと子どもたちが移行するにあたり、それぞれをつなぎ、支えてコーディネートするとともに、問題や課題に対して取り組むなかで解決策を見つけ、切り開いていく実践力」であり、3つの力「つなぐ」「ささえる」「ひらく」から成り立っている。実際の実践例を紹介しながら、プログラムの意義を検討したい。